

氷の感触1年ぶり

陸前高田
広田小児童

金ケ崎でスケート体験



久々に氷の感触を確かめながらスケートを
楽しむ広田小児童

【奥州】陸前高田市の
広田小学校の児童は7
日、金ケ崎町のみどりの
郷スケート場でスケート
体験を楽しんだ。奥州市
民有志のボランティア団
体「奥州♡絆の会」（渡辺
明美会長）が1泊2日の
日程で招いたもので、8
日も体験する。

の8人が参加した。
参加児童の半数近い11
人は初参加。普段スケー
トで遊ぶことはあまりな
いという、インストラク
ターから基本指導を受け
て自由滑走した。初めは
フエンスにしがみついて
いた児童も少しずつ慣
れ、友達と手をつないで
滑るなどして満喫した。
今年も雪がなく、雪だ
るま作りも楽しめた昨年
とは違うものの、参加2
回目の前川来奈さん（4
年）は「1回転したら去
年の感触を思い出し、滑
れるようになった。1年
ぶりなので楽しい」と笑
顔を見せた。

11年3月末結成の同会
は会員18人。同校卒業生
への色紙贈呈や「3・11
を忘れない」行事、広田
小、広田水産高校庭の仮
設住宅入居者への餅つき
と振る舞いなど県内外の
賛同者からの支援金を基
に活動を続ける。

渡辺会長（68）は「始
めた年の1年生が今は6
年生。回を重ねること
で、団体生活でのけじめ
や施設の使い方を学び、
小さい子の面倒を見るな
ど成長した姿を見ること
ができてうれしい。これ
からも状況に応じた支援
を考えたい」と話した。



笑顔でリンクを滑る広田小の児童

銀盤悠悠輝く笑顔

広田小（陸前高田）の児童招く

奥州の団体

金ケ崎

奥州市のボ
ランティア団
「奥州♡絆の会」

渡辺明美
会長

11年3月末結成の同会

は会員18人

同校卒業生への色紙贈呈や「3・11を忘れない」行事、広田小、広田水産高校庭の仮設住宅入居者への餅つきと振る舞いなど県内外の賛同者からの支援金を基に活動を続ける。

渡辺会長（68）は「始めた年の1年生が今は6年生。回を重ねることで、団体生活でのけじめや施設の使い方を学び、小さい子の面倒を見るなど成長した姿を見ることできてうれしい。これからも状況に応じた支援を考えたい」と話した。

岩手日報

上げて氷の上を滑り回った。初めて参加した佐藤慶太君（広田小6年）は「友達に教わりながら滑ることができて楽しかった」と満喫した。同町の県南青少年の家に宿泊し、8日もスケートを楽しむ。

同会は東日本大震災後、陸前高田市広田地区への支援を継続している。同イベントは、被災地の子どもたちに思いつ存分体を動かす機会を提供し、冬休みの思い出をつくってもらおうと、2012年1月から毎年行っている。

同会事務局の渡辺喜美男さん（67）は「活発な姿から、逆に元気をもらっている」と子どもたちの笑顔を見守った。